

## ブック

今から80年後の22世紀に必要な教育とはどんな教育でしょうか？

本著では、来るべき未来社会を予想して、「子どもたちに生きるための能力を授ける」ために、社会の変化と結びついた形で実践的な議論が展開され、現在の日本の教育の諸問題が、

旭上に載せられている。著者は劇作家、演出家として名を馳せているが、大学で教鞭も執っており、演劇教育やコミュニケーション教育を専門としている。

第1章から第4章は、大学入試改革の経緯(センター試験の廃止から共通テストの開始)・理念、萩生田文科大臣の「身の丈」発言等、さらに、著者がこれまで関わってきた四国学院大学や桜美林大学、大阪大学をはじめとして、大学入試から市町村の職員採用試験までの様々な教育改革、及び入試・採用試験問

平田オリザ 著  
946円 講談社現代新書  
ISBN 978-4-06-9625-0-0



### 22世紀を見る君たちへ これからを生きるための「練習問題」

題も列挙されている。第5章は、子どもたちの文章読解能力について、「A1 vs. 教科書が読めない子どもたち」を挙げ、クリティカルな視点で、教科書が読めないから成績が悪いのではなく、試験では「出題形式に慣れているかどうか」が結果を大きく左右すること等を述べ、①誤解を受けない文章を書くことや誤読の事後処理の準備、②相手に伝わる文章を書くこと、③A1と仲良くできる子どもを作ることが大切であると主張している。第6章は子どもたちに演劇教育、芸術教育を提供することが今後の教育政策、文化政策の課題を軽減させると主張し、最終章では、

何もわからない未来に向けて、子どもたちには高校、大学になっても好奇心を持続させるような教育、すなわち「おやおやおどろく心」「なぜ?と不思議がる」授業、「こうかもしれないぞと考える」試験を手間暇かけて作っていくことであると結んでいる。

(愛知教育大学教授・高橋美由紀)